

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：いはらの川再生プロジェクト～ふるさとのニホンウナギを救え！庵原から日本、そして世界へ！～		
水系／河川名：庵原川水系／庵原川	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：22km ²	整備計画流量：260m ³ /s(W=1/5)	セグメント：1
事業：維持管理	事業開始年度	平成29年度
目標設定：定性的	段階	C(モニタリング・評価時)
課題・目的(主な)：貴重種、特定動植物の保全		
工法(主な)：その他 根固工		
配慮事項(主な)：歴史・文化への配慮、人材育成		

背景・課題、目標設定

<背景>

日本人の食文化には欠かせないニホンウナギは、その個体数の減少により、絶滅危惧1Bに指定された。その要因の一つとして、コンクリート護岸等の整備による生息環境の悪化がある。

また、近年、川で遊ぶ子供達も少なくなっていて、そのような状況に関心を持つ人も少なくなっている。

庵原川についても、川で遊ぶ子供達は少なくなり、また、コンクリート構造物によりニホンウナギの生息域が悪化している。

そのような中で、少しでも多くのニホンウナギを地域住民と守っていくため、河床洗掘防止を目的とした河川維持修繕工事において、コンクリートブロックではなく、ニホンウナギ等の水棲生物の生息に配慮した、多孔質な空間を確保できる「石倉カゴ」を用いて、未来の川づくりを担う地域住民(子供達やそのお父さん、大学生など)と事後調査を実施した。

<目標>

庵原川の取組みを他地域にも広げ、ニホンウナギの住みやすい河川を増やす。そして、国内のウナギを保全し個体数を増やし、最終的に世界のウナギの保全を目指す。

取り組み内容・対策例

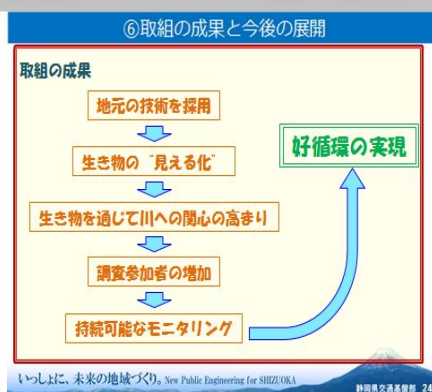


モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

- ・河川維持修繕工事において、Coブロックではなく、ニホンウナギ等の生息環境に配慮した多孔質な空間が確保される「石倉カゴ(地元の技術)」を設置した。
- ・地域で継続して事後調査ができるよう地域住民主体の新たな環境活動団体「いはらの川再生PJ[プロジェクト]会」を立ち上げた。
- ・今後、地域づくりの主力となる40歳前後のお父さん達を中心に、庵原地区の未来の川づくりの担い手となる小中学生をメンバーとした。
- ・調査でウナギが捕まるとともに地域住民の関心が高まり自主的に参加してくれる人が増えた。
- ・自主的な参加者の増加により持続可能なモニタリングが期待でき

備考

今回施工区間は、平成20年に1/5確率での整備を実施した。整備開始10年が経過し、河床洗掘により根固めブロックが転倒したため改修工事を行うことになったが、小さな自然再生を行うことで、水棲生物のための多自然だけでなく、流域に住む人々が多自然川づくりに携われる良いきっかけになった。



平成29年度 全国多自然川づくり会議 中部ブロック選出
庵原川水系／庵原川 所属名 静岡県静岡土木事務所

いはらの川再生プロジェクト

～ふるさとの二ホンウナギを救え！ 庵原から日本、そして世界へ！～

Keywords : 地域との協働, 二ホンウナギの保全、川づくり担い手育成

●事後調査参加者



二ホンウナギを地域住民と守っていくため、河床洗掘防止を目的とした河川維持修繕工事において、二ホンウナギ等の水棲生物の生息に配慮した、多孔質な空間を確保できる「石倉カゴ」を用いて、未来の川づくりを担う地域住民（子供達やそのお父さん、大学生など）と事後調査を実施している事例を紹介する。